

洋書輸入協会会報

VOL. 6

NO. 9

(通巻65号) 昭和47年9月

理事会報告

8月10日(木)

(一) 前回議事録の確認。

(二) Richard Abel & Co., Inc. について情報交換。

(三) 評価申告用紙(課税品)の変更について。

税関から申出があった会員のための講習会については、通関委員会にまかせることにする。

(四) 海賊版についての情報交換、対策協議。

南旺社(四谷)および理研工学社(浦和)について、現況の報告があり、対策を協議。

(五) 入会申込み審議

準会員 株式会社トーヨー承認。

(六) 七月分収支の検討。

(七) 情報交換。

— 洋 書 あ れ こ れ —

八木さんを開む座談会

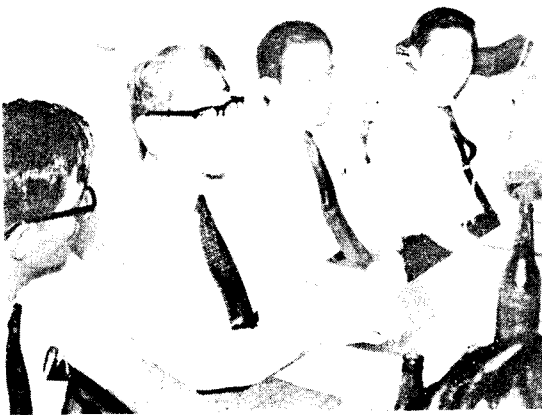
昭和 47 年 7 月 27 日

於 協 会 事 務 所

出席者：八木佐吉氏（丸善「本の図書館」館長）

会 報 委 員 全 員

会報委では7月の編集会議のあと、八木さんにお越しをいたゞいて、お話をお伺う機会を持った。初めの意図は、今後会報に執筆していたゞくために、お互いの意見を交し合うつもりだったが、八木さんのお話が非常に興味深いものなので、その一部をこゝに掲載することにした。



——：八木さんには、会報発足以来たびたび原稿をいたゞいておりますが、とりわけ45年の12月号から連載させていたゞいている「洋書学入門」はその抜刷を増刷しているほどで各社の新人教育などにも役立っております。いつも大変有難く思っておりますので此の機会に厚くお礼を申しあげます。我々の方からは、唯何か書いて下さいというだけで、甚だ漠然とした注文なので、八木さんの方から皆と話し合ってみたいというお話があったのもその辺のことがあっての事でしょうし、又今後執筆していたゞくについて、八木さんの方からも私達に対して注文などがおありなのではないかと思います。気楽に話し合いたいと思いますが、どうかよろしく。

フリートーキングでやってこうと思いますがどんな風にいたしましょうか……。

八木：皆さんから質問でもしていたゞいて。まだ場慣れがしないし、昭和通り越すとどうも調子が悪いんで（笑声）、川向うにでも行かないとね（笑声）。

——：今後書いていたゞくことについて、いろいろ勝手な注文をつけた方がよろしいんですか。

八木：どうも不精ですからね、まあ私の目標はね、意図して書き出したわけじゃないんですが、会報に書く前から少しづつ考えていたことは、いろんなことを、丸善の人、或は業界の方に、基本的なことを知っていたゞいた方が、本屋さんとしてお客によくサービス出来るんじゃないかと思うわけで、昔風で新しいことはちっともないけど。私の持論、特に戦後こういう風に感じることだけど、本屋さんというものが、洋書だけ扱うんだといって澄ましてはいけないということ。日本書も古書も新本も、雑誌も含めて、本と名がつけば何でも扱えるっていうことが必要ではないか、これから余計そうなってくるんじゃないかと思うわけで。本造りのこと、紙や印刷のことも、外国語だけでなく、日本語のことも併せて触れてゆきたいと思います。なかには仲々表現のうまくゆかないものもありますけれどね。洋書を買う方は必ず日本書を買うんだし、日本書をお買いになる方の中にも洋書を買う方が多いんで、組織が大きくなると分業になりますけれど、しかし基本はやっぱり日本書で。何の仕事でも基本が一番大切ですから、そんなようなつもりでこれから仕事を進めてゆきたいと思っています。

——：戦前と戦後の洋書屋を比較して感じることは、我々も含めてアプレゲールの本屋は墮落してるんじゃないかと思っています。その原因は、戦後、洋書がマセールになって、セールスを担当しているものも、まとまったものを扱うというのが先にたってしまい、それがたまたま高度経済

成長政策とか、大学がたくさん出来たということと相まって一層輪をかけるようになってしまったのじゃないかと思うのですが、やはり本屋の基本的な姿勢というのは、一冊一冊の本を調べあげて、注文された方、必要とされる方にお届けしてゆくということなので、その基本を良い加減にごまかしてしまっているのが、今日の洋書業界のあり方ではないか、その点、八木さんの今のご意見は私達の考えるところと全く同一で、基本のところにもう一回たち帰ることが大切なのではないかと思うわけです。

——：いろいろ考え方があると思うんですが、戦後の本屋というのは、本屋として良いということゝ企業として良いということが必ずしも一致しない、その点にも問題があると思います。

八木：まあ今はなかなか余裕がないですからね。古本屋さんの世界では「買いは急いで売りはいそぐな」という言葉があります。この「いそぐな」というところには、いろいろ含みがあり、買ってすぐ売れば買値が判ってしまうから、という点もあるのですが、ゆっくり温めておけば値上りが期待出来る。その間にその本について調べあげて自分の身になることはとっておく、それが出来なければ古本屋としては大成しないという。もっとも、これもものによってそう出来るものと、出来ないものとはあります。砂糖だとか石炭だとかは、品物の姿を見ないで書類だけで取引をしますが、本は大体皆さん眼を通します。その眼の通し方に、よく見るのと、スーッといっちゃうのとありますけど、大体スーッといっちゃうのが多いでしょう。丸善あたりだと、中には支店にスーッと行っちゃって本社にはインボイスだけしかないというようなことになる（笑声）。

——：今のお話ですけど、最近は情報の氾濫と云いますか、売りを急がないと紙キレになってしまうものがあり、その為に仕事がせゝこましく、忙しくなっているということを感じるのですが——。

八木：それはいつの時代にもあったことで、昔丸善にいた内田魯庵さんなんか「トンカチの本」なんてよく云っ

てましたね。要するに道具にするような本。そういう方は早いほど良い訳です。

——：八木さん御自身、本の収集とか何かについて特に意図されている点はございますか。

八木：或る主義はありますけれどね。しかし主義はあっても大分派生が多くなってしまっただけで。私の本の略歴を大ざっぱに云うと、17〜8才頃からペルリの日本遠征史、コークスという人の編纂したものですが、それを読んで、それが病みつきみたいになって、東西交渉史とかキリスト教の伝道のものとかを集め始めました。全部戦災で焼いてしまいましたけれど。1932年頃丸善で切支丹版の展示をやった時は、その収集などが役に立って解説を書いたりしたものです。

——：そういう点からも本屋は何か自分で専門を持たなきゃいけないんじゃないかと思いますが。

八木：それは肝心ですね。お店の中で何かしら自分がいなきゃ判らないというものを作ってゆかなくっちゃ。まあ私自身のことを云うと自慢話みたいになりますが、第一次大戦の後、青島（チンタウ）からドイツ人の捕虜が来て、東京だと浅草の本願寺とか、それに主に四国の方にいましたけれどね。そのドイツ人がドイツ文字で書いた本の注文を寄越すんですよ。丁度私が夜学でドイツ語を少しやっていたもんで、そういう手紙が来ると先輩のところをたびこして僕んとこに廻ってくるんですよ。なかには読めないものもありましたけれど何とか書名をさぐりあてゝ送ってやる。その内にドイツ語の手紙が来たらあいつのところに持ってけ、ということになっちゃった。もう50年も前の話ですがね。

——：その頃は現在のようなビブリオグラフィーはあったんですか？

八木：あることはあったのです。しかし我々には使いこなせなかったのです。丸善としては、しっかりした台帳が出来ていて、日本に関する本なんていうと、それに基いて目録を作ることが出来ました。（次号につづく）

洋書こぼれ話し

殖 栗 文 夫

ストックからになる

戦前のことである。教文館の支配人になって社内をしらべてみて驚いたことは倉庫に山積していた売れ残りの洋書であった。洋書は買取が立前の仕入れである。多少返品可能な条件があってもそれは多量に注文しなければ適用されないからわれわれには何にもならなかった。カタログなどを見て、一日も早く注文する。早く入手しないと益々売れないから仕方ない。そこで全く見込みで注文した本が半年も、それ以上もたってから入荷してくる。見当りがいで売れないものがあるのはあたりまえである。そうかといって洋書店として店をひらいている以上新刊を輸入しないわけにはいかない。客の注文のものなら間違いないはずだが、なかにはようやく着いても引取ってもらえないものもできる。それらは多くが専門書だから一般の読者に売れることはむずかしい。こうしてどんどん売れ残った書籍がたまっていく。洋書輸入業というものは大変なものだと思った。

大平洋戦争の気配が日に日に濃くなると洋書輸入業界も政府の統制を受けるようになった。その筋のいうことをきけば少しでも輸入のわくが多くもらえるであろうと思って丸善、南江堂などを中心にして海外出版輸入同業会をつくった。しかし、これができあがった頃にはもう輸入どころでなく実質上は古本屋に転業していた。というのは宣教師その他の在留外人が強制的に引上げさせられるのでその所蔵の書物を引取ってくれという要求が殺到したからである。もっとも輸入がほとんどできないので洋書店としては商品が少なくなる。これらの古書が多少でもこれを救ってもくれた。こうしているうちに戦争がはげしくなるにしたがい一発爆弾でもくったらすべてが灰になるとは思ったが平素引立てもらった顧客からの話なので「まあご恩返しだ」と思って出来るだけ買取った。しまいには会社の廊下から私の部屋の中までこれらの書物で一杯になってしまった。頑張って買ってはみたものゝ次第に洋書の売行きは少なくなりこの山のような古洋書をどう処分しようかといささか弱った。

それが終戦と共に急に羽根が生えたように売れだした。何十セットもあった大英百科事典などもあつという間になくなってしまった。洋書であれば何でも売れた。その氣運にのって長年倉庫でねむっていた書物がどんどん売れてしまったのは面白い想出である。

オリエンタル・カタログ

以上にのべたように戦争の進展と共に洋書の輸入は極度にむずかしくなったのに、どうしてくるのか英国からはぼつぼつ書籍が入荷した。そしてこれらの本には一冊づつ、どれにも「これは英国船で運ばれてきました」という文句が印刷され護送船に守られて商船が航海しているきれいな画のついた紙片が入れてあった。英国のPRである。

これとはわけがちがうが、洋書の輸入もいいが、少し輸出にも手をつけてみようと考えた。戦前のことでわが国で欧文で出版されたものは少なかった。そしてこれらの総合カタログはなかった。たまたま教文館は今年創立満百年を迎える日本アジア協会紀要の発売元である。これは海外の日本研究学者には欠くことのできない権威のあるものである。これを中心に、鉄道省で出していたツーリスト・ライブラリー、国際文化振興会の刊行物、オレスト・ヴカリ氏の日本語教科書その他及ぶ限りの欧文で書いたわが国の出版物を収録して「オリエンタル・カタログ」と称するものを作った。そしてこれを海外の学校や図書館、取引書店などへ郵送した。このカタログをつくるには収録した書物の出版社からもスペース代として援助してもらったが教文館としてもかなりの負担をした冒険であった。

さいわい、カタログを発送してから半年ぐらいうるとポツポツ注文がきはじめた。商売としては大したことはなかったのだが苦勞した仕事に芽が出たのはうれしかった。

いまは世界の至るところで日本への関心が高まっている。もう一度このようなカタログを作って「日本の洋書」を世界に売りさばいてみたい気がする。

(日本リーダーズ・ダイジェスト社顧問)

「スカラー・プレス買収さる」

ヨークシャーに本拠をもち、高度の文学書や専門書等のファクシミリ・リプリントで知られる Scholar Press は、ダービーの Benrose Corporation に買収されることになった。

Benrose Corporation は、Scholar Press の 1 ポンド株 55,556 株の代りに 25ペンスの普通株 209,000 株を発行する。Benrose が取得する資産は、1972年 3 月 31 日現在で 125,294 ポンドと推定される。1971年 12 月 31 日で終了した年度の Scholar Press の純益は 14,772 ポンドであった。

1965年に Scholar Press を創立した Robin Alston 氏は、マネージング・ディレクターとして同社に残り、Benrose Corporation のディレクターであり同グループの出版部門の長である John Commander 氏が新たに同社の会長に就任することになっている。(The Bookseller, 8 月 19 日号より)

会 員 紹 介

東京洋書株式会社(準会員)

代 表 者 木 原 国 夫

現代表取締役の木原国夫氏が 1968 年 4 月外神田に同社を設立、1971 年 5 月に事務所を現在の銀座に移し、現在に至っている。

当初は化学会社の本社管理部門、特に開発部、企画部、調査部等を対象とした雑誌、書籍、調査資料を中心に営業活動をしていたが、現在ではアルミニウム、造船、医薬品会社等を含めて、ほぼ全産業分野にまで活動範囲は拡張されている。

雑誌、書籍といっても、取り扱はれる資料は、上記の通り主たる取引先が、経済界の動向に機敏に対応する企業の戦略部門が多いためにのびのびとニュース性の濃いもの、マーケティング調査資料、研究開発調査資料等が圧倒的な比重を占めている。

総代理店契約を結んでいる機関は、B. C. C. (Business Communication Co., 米国)、Information Reserach Ltd (英国)、Droit et Pharmacie (仏国) 等数社である。

「定価制廃止の結果」

スウェーデンでは二年前に本のいわゆる自由価格制を導入したが、その結果スウェーデンの書籍市場にはきわめて重大な徴候が表われてきている。

書籍の定価販売制度の廃止は、当然のことながら、市場における激しい価格競争を惹起した。国や地方自治体、図書館や学校など大口の買い手は、このチャンスをとらえ、書籍販売業者、特に大コンツェルンに属さない、地方の業者を圧迫した。例えば、教科書は、どこでも63%という狭い利幅で納入せざるをえない破目に追い込まれている。業界にアウトサイダーがいる地方では、この利幅は更に狭いものになっている。

更に今年の3月に、教科書出版業者は、販売業者に対し、今後教科書の価格はすべて正味価格のみを表示し、大口得意先へはこの正味価格で版元より直接に納入することを通告してきた。書籍販売業者は取次もできるが、その口銭はせいぜい5%か6%どまりである。意図するところは、近い将来に国あるいは地方自治体が支配する中央教科書配給会社のごときものに配給の一切を委ねることであり、要するに書籍販売業者を販路からしめ出すことである。

激しい価格競争により被害を受けているのは、地方の小企業ばかりではない。ストックホルムのボニエール・コンツェルンは、これまで獲得してきた各地のチェーン・ストアを次々に売りに出したり、閉鎖したりしている。収益悪化のためである。有名なサンドベルグス・ボークハンデルは、従業員の約半教を解雇した。最大のアルムクヴィスト・ウント・ヴィクセルは、売上高が12%低下している。

定価制の廃止以来スウェーデンでは書籍販売業者の数は減少し、従業員数も減少、サービスは悪化していることは否みがたく、また、出版社も極力その生産を抑え、投機的な、あるいは冒險的な出版は行わないようになってきている。

現在のところ、定価制の廃止の結果として起った、無意味な、致命的な競争、伝統的な市場（教科書・図書館）からの閉め出しなどにより、甚大な被害を蒙っているのは書籍販売業者である。この混乱の影響は、しかし、次には出版社、著者、印刷、製本業者などに及ぶであろう。

自由価格制は、古めかしい、一方的な価格の強制を排除するはずであった。しかし、スウェーデンでは、教科書の分野では、価格の独占的な決定権が生産者側に移ったにすぎず、結局、末端の消費者にとって本は以前より高くつくことになった。例えば平均的な価格である10クローネの本をバラで購入しようとすれば、注文の費用（5クローネ）その他雑費を加えれば20クローネになってしまうのである。（Börgerblatt, 8月11日号より）

- Lawyers Cooperative 社の Director. Mr. Williams B. Hale, 7 月下旬来日。
- William Collins 社の Mr. A. L. Philip 8 月中旬来日。
- Verlag für Psychologie の Dr. C.-J. Hogrese 8 月下旬来日。
- Addison Wesley 社の Vice President. Mr. Nak. Y. Choung 8 月下旬来日。
- G. K. Hall & Co. の Director of Marketing. Mr. John F. Curley 9 月来日予定。

外国出版社の紹介 No. 11

Oxford University Press

オックスフォード大学出版局は、1479年即ち英国に於いて出版が始った翌年に出版活動が開始された。

以来、500 年出版界に最古の歴史を誇っているが同時に亦、最高の権威と最大の規模を持つ大学出版部として、世界文化の発展に重要な役割を果たして来ている。

オックスフォード大学出版局は大学の一部局であり、大学副総長（理事長）と選出された教授からなる理事会によって管理運営されており、学術の振興、宗教情操教育、文化の向上に寄与することを一貫した目的としている。この目的のために一方では、採算を度外視した学術書を出版すると共に、他方では Oxford English Dictionary を初めとする辞書類、有名な古典の標準決定版といわれる Oxford English Texts、英訳聖書の各版、社会科学、人文科学、自然科学、宗教、文学、美術、音楽、児童図書及び英語を母国語としない人々のための教材等、広汎な分野にわたる出版活動を行っている。

1896年 New York 支店が誕生して以来、引続き世界各地に相次いで支店を設置、その地域に適した書籍を出版し供給している。1958年東京に設置された代理部は、出版部発行書籍の著作権の管理、翻訳、翻刻権の譲渡、広報等の業務を行って来たが、1966年 6 月新たに海外第20番目の支店に昇格すると共に出版書籍の供給、日本に適した書籍のリプリント、英国の Faber and Faber 社および、辞書、人文、社会科学の分野で顕著なる出版物を刊行している英国の Routledge and Kegan Paul 社の代理も行っている。

新入会員のお知らせ

今回下記のかたが準会員として入会されましたので、お手許の会員名簿にご記入願います。

㈱トーヨー 代表者 美坐四郎氏

〒541 大阪市東区南久太郎町3-32

☎ (06) 245-0851

通 関 統 計

外国貿易概況（大蔵省関税局編、日本関税協会発行）

1972年5月号所載。

書籍、新聞、雑誌の輸入額。

昭和47年5月 \$4,418,000 1月以降累計 \$21,784,000

昭和46年5月 \$1,892,000 // \$ 8,267,000

総代理店ご案内

次の通り日本総代理店の案内がございました。お手許の Agent List にご記入願います。

丸 善 ㈱ ☎ 272-7211

Howat, G. M. D. (ed.) -

A Dictionary of World History (Thomas Nelson)

ca ¥15,450

㈱ 南 江 堂 ☎ 811-7234

Little, Brown & Co.

Bone and Joint Clinicopathological Conference

of the Massachusetts General Hospital.

by B. Castleman & J. M. McNeill

1967 254 pp. ¥7,200

Cardiac Clinicopathological Conference of the

Massachusetts General Hospital.

by B. Castleman & W. DeSanctis

1972 440 pp. ¥10,260

Neurologic Clinicopathological Conferences of

the Massachusetts General Hospital.

by B. Castleman & E. P. Richardson, Jr.

1967 304 pp. ¥7,200

Surgical Clinicopathological Conferences of

the Massachusetts General Hospital.

by B. Castleman & J. Burke

1964 294 pp. ¥7,200

ユナイテッド・パブリッシャーズ・サービス社

☎ 262-5278

Behavioral Publications, Inc. (米国) 総代理店業務開始

University North Carolina Press (米国) 同 上

Blandford Press Ltd. (英国) 同 上

Ernest Benn Ltd. (英国) 同 上

Medical and Technical Publishing Co.

Ltd. (英国) 同 上

㈱ ユー・エス・エンアテックカンパニー

☎ 502-6471

American Society for Microbiology

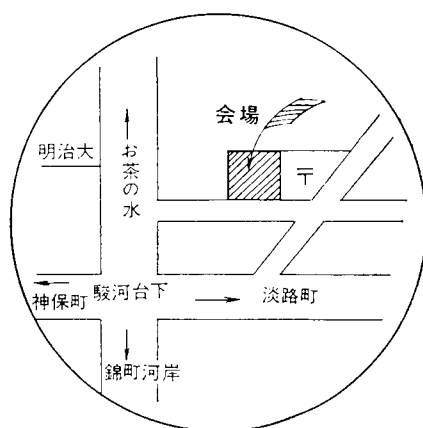
Back Number についてはお問合わせ下さい。

誌 名	List Price
Applied Microbiology	¥25,000
ASM News	2,870
Bacteriological Reviews	5,330
Infection and Immunity	16,800
Journal of Bacteriology	31,980
Journal of Virology	16,800
Antimicrobial Agents and Chemotherapy	16,800
Bacteriological Proceeding	4,100
International Journal of Systematic Bacteriology	4,920

第 5 回

洋書まつり '72

洋書輸入協会主催合同セール



と き 昭和47年10月13日(金) 14日(土) 15日(日)

9.30~6.00

ところ 東京古書会館 千代田区神田小川町3-22

洋書輸入協会 Directory 1972

協会案内、会員名簿、総代理店名簿

外国出版社代表者名簿

134ページ 総索引(24ページ)つき

定価 1,000円 (会員特価 500円)

Handbook of CLINICAL NEUROLOGY in 30 Volumes

General Editors

P. J. VINKEN (Amsterdam) & G. W. BRUYN (Utrecht)

Editorial Advisory Board

Raymond D. Adams (Boston), A. Biemond (Amsterdam), Paul Castaigne (Paris),

MacDonald Critchley (London), Russell N. DeJong (Ann Arbor/Michigan),

Shigeo Okinaka (Tokyo), S. Refsum (Oslo) & R. J. Zülch (Köln)

Vol. 1	Disturbances of Nervous Function	800 pp.	1969	定価 ¥28,800 (全巻予約価 ¥24,480)
Vol. 2	Localization in Clinical Neurology	750 pp.	1969	定価 ¥27,000 (全巻予約価 ¥22,950)
Vol. 3	Disorders of Higher Nervous Activity	420 pp.	1969	定価 ¥15,120 (全巻予約価 ¥12,850)
Vol. 4	Disorders of Speech, Perception & Symbolic Behaviour	520 pp.	1970	定価 ¥18,720 (全巻予約価 ¥15,910)
Vol. 5	Headaches & Cranial Neuralgias	472 pp.	1968	定価 ¥15,480 (全巻予約価 ¥13,150)
Vol. 6	Diseases of Basal Ganglia	925 pp.	1969	定価 ¥33,240 (全巻予約価 ¥28,250)
Vol. 7	Diseases of Nerves I	750 pp.	1971	定価 ¥27,600 (全巻予約価 ¥23,460)
Vol. 8	Diseases of Nerves II	566 pp.	1970	定価 ¥22,200 (全巻予約価 ¥18,870)
Vol. 9	Multiple Sclerosis & Other Demyelinating Diseases	706 pp.	1970	定価 ¥27,600 (全巻予約価 ¥23,400)
Vol. 10	Leucodystrophies & Poliodystrophies	650 pp.	1971	定価 ¥24,000 (全巻予約価 ¥20,400)
Vol. 11	Vascular Diseases of the Nervous System I	850 pp.	1972	定価 ¥31,200 (全巻予約価 ¥26,520)
Vol. 12	Vascular Diseases of the Nervous System II	800 pp.	1972	定価 ¥28,800 (全巻予約価 ¥24,480)
Vol. 13	Neuroretinal Degenerations	525 pp.	1972	未 刊
Vol. 14	The Phakomatoses	757 pp.	1972	未 刊
Vol. 15	The Epilepsies	630 pp.	1972	未 刊
Vol. 16	Tumours of the Brain & Skull I	570 pp.	1972	未 刊
Vol. 17	Tumours of the Brain & Skull II	546 pp.	1972	未 刊
Vol. 18	Tumours of the Brain & Skull III	600 pp.	1972	未 刊

NORTH-HOLLAND PUBLISHING COMPANY

305-311 Keizersgracht, Amsterdam, The Netherlands

日本総
代理店

医学書院洋書部

〒113 東京都文京区本郷1-28-36 鳳明ビル
TEL 東京 (03) 814-5931~3 振替 東京 53231

昭和47年9月 通巻第65号 洋書輸入協会 編集者 寺久保一重

〒103 東京都中央区日本橋江戸橋1-15-5 藍沢ビル302号室 ☎ 271-6901

〒530 関西支部 大阪市北区芝田町28 第一山中ビル ☎ 371-5329